

給食事故 新聞を読み比べる

12月21日

朝日新聞 小5女児が給食後に死亡 アナフィラキシーショックか

東京都調布市の市立富士見台小学校で20日、給食を食べた直後に5年生の女子児童(11)が体調を崩し、搬送先で死亡した。市教育委員会によると女児には乳製品の食物アレルギーがあり、市教委は死因との関係調べている。

市教委によると、同日の給食はわかめごはん、チーズ入りチヂミ、ナムル、ミートボールスープ、牛乳。校内で調理し、女児用にはチーズを除いたチヂミが提供されていた。牛乳は飲んでいなかったという。その後、女児が気分の悪さを訴えて病院に救急搬送され、午後4時半ごろに死亡した。アレルギーで起きるアナフィラキシーショックの可能性もあるが、市教委は「アレルギーと死因との関係はまだわかっていない。事実確認を急いでいる」としている。

毎日新聞 給食:アレルギーで?食後に女児死亡…東京・調布

東京都調布市の市立富士見台小学校で20日、小学5年の女子児童(11)が給食を食べた後に体調不良を訴え、搬送先の病院で死亡したことが調布市教委への取材で分かった。女児はチーズなど乳製品にアレルギーがあったが、その日の給食で出されたチーズ入りのチヂミを食べたという。アレルギーが原因で亡くなった疑いがあり、警視庁や調布市が経緯について調べている。

同市教委などによると、女児は普段、チーズや卵を除いた特別メニューの給食を食べていたが、この日は完食後、通常メニューのチーズ入りのチヂミを食べた。警視庁によると、死因は急性アレルギー反応を起こしたことによるアナフィラキシーショックとみられるという。市教委は「事実確認を急いでいる」とコメントを出した。【松本惇】

1月9日

東京新聞 調布の小5 給食アレルギー死 市教委、検証委設置へ

調布市立富士見台小学校(小島町三)の五年生女子児童(11)が給食後に食物アレルギーで死亡した問題は、学校側の確認ミスの可能性が高まった。市教委は八日、原因とみられているチーズ入りチヂミを手渡したのは担任の男性教諭と発表。担任教諭の確認ミスと学校側の責任を初めて公式に認め、遺族らに謝罪した。(梅村武史)

これまでの調査内容に不明な点も多く、市は医師や弁護士ら外部のメンバーを含む検証委員会を設け、原因究明と再発防止策をまとめる。市が発表した先月二十日の給食時の状況は次の通り。

午後零時四十五分、担任が余った粉チーズ入りチヂミを手に「食べる人いない?」と教室を回る。

零時五十分、女児が「ほしいです」。担任は「大丈夫か」と応じ、粉チーズ入りチヂミを渡した。

市教委によると、担任はこの際、女児の親が作成した女児用献立表を確認。チヂミにアレルギー食材の印が付いていなかったことから「大丈夫と判断した」という。

しかし、本来はアレルギー物資の有無を学校側が記載した「除去食一覧表(通称・おかわり表)」をチェックすることになっていた。担任は「確認を失念した」と説明している。手順を踏んでいれば、女児の死を防げたことになる。

海東元治教育長ら市教委幹部は会見の冒頭「児童の冥福をお祈りするとともにご遺族の皆さまに心よりおわびします」と深く頭を下げた。会見は、アレルギー疾患を抱える児童への学校側の認識の甘さを指摘する質問に集中した。「調査中」を繰り返す市教委側は、担任の処分にも「状況を見て判断する」と述べるにとどまった。(後略)

1月10日

朝日小学生新聞 生が誤ってチーズ入り渡す 給食後に小5死亡

東京都調布市富士見台小で先月20日に5年生の女の子が給食を食べて亡くなった問題で、乳製品の食物アレルギーがある女の子に、担任の先生が誤ってチーズ入りのチヂミをわたしていたことが、市の教育委員会の調査でわかりました。この日の給食で、女の子にはチーズをぬいたチヂミを出しましたが、お代わりとして先生がチーズ入りを配ってしまったといいます。

女の子の死因は、アレルギーで起きる「アナフィラキシーショック」の疑いがあるとわかっています。